

各位

令和8年度稲作情報 第5号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和8年度 稲作情報 第5号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6分割。1半旬は1~5日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成22年~令和2年(11か年)の平均値

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
5	2	18.1	17.8	23.1	24.1	13.6	12.0	24.4	0.0	35.0	55.4
	3	18.8	19.0	23.7	25.5	14.3	14.0	26.1	0.0	35.1	54.1
	4	19.4	21.8	24.3	29.7	15.0	15.5	22.2	0.5	35.5	54.1
	5	19.9	21.0	24.8	25.0	15.7	18.4	17.8	10.5	34.0	22.5
	6	20.4	22.6	25.0	28.1	16.5	18.3	18.5	24.5	37.1	35.5
6	1	20.9	21.4	25.2	25.3	17.3	18.8	18.2	28.5	27.3	7.4

6月1半旬の平均気温は平年並みで推移した。6月4日に梅雨入りが発表された。降水量は平年の1.5倍と多く、日照時間は平年の3割と短かった。

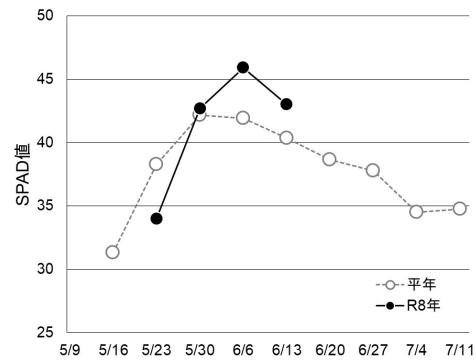
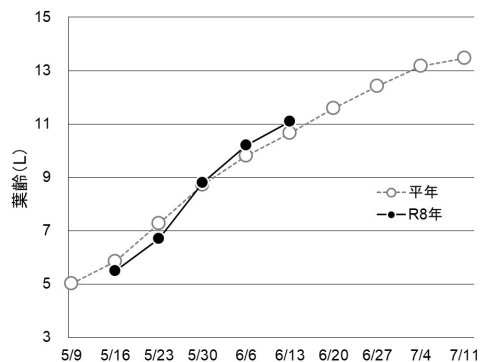
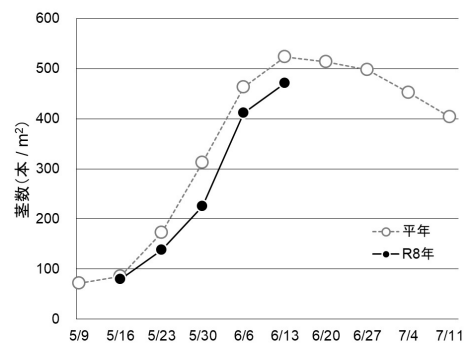
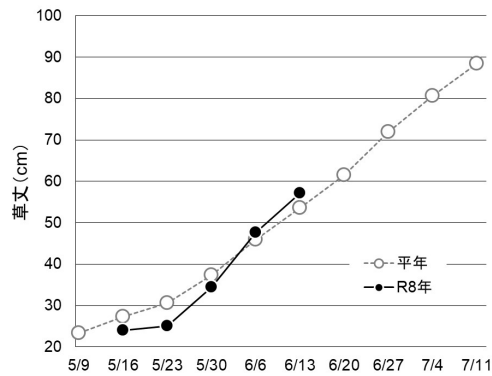
2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4月24日移植 18.3株/m²(60株/坪)

(6月9日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	57.1	43.6	53.5	131	107	高い
茎数(本/m ²)	471	569	524	83	90	少ない
葉齢(L)	11.1	10.1	10.7	1.0	0.4	やや早い
葉色(SPAD)	43.0	40.2	40.3	2.8	2.7	やや濃い
葉色(葉色板)	3.5	4.1	3.7	-0.6	-0.2	やや薄い

※平年値:令和元年~令和7年までの値から最高・最低値を除いた平均値



移植直後の寡照により生育に遅れがみられていたが、6月に入り、草丈は平年より高く推移している。茎数は平年の9割と少ない。葉色(SPAD)については平年よりやや濃く推移している。

3 今後の管理について

(1) 有効茎が確保された圃場では中干しに移行する。

- ・4月中に移植された圃場では有効茎が確保されていますので、中干しに移行してください。中干し開始の目安は、1株あたり20～25本の分げつ茎が確保され、株が開張して圃場の半分から奥の株間が見えなくなり出した頃です。5月上旬以降に移植した圃場では、浅水管理により有効茎を確保した後に中干しを行ってください。
- ・中干しは田面に軽い亀裂が入り、足を踏み入れれば足跡がわずかに付く程度に行ってください。田面に大きな亀裂ができるような過度な中干しは、断根などにより生育抑制につながるため避けてください。降雨が連続する場合は水尻を開けて落水管理としてください。
- ・中干し後は間断灌水とします。幼穂形成期から穂ばらみ期は水を必要とするため、白乾状態とならないように注意してください。



適度な中干し

(2) イネクロカメムシやいもち病が見られる圃場では薬剤による防除を行う。

例年イネクロカメムシが多発し、吸汁による生育抑制が見られていますが、本年は発生時期が早く、被害株も多く確認しています。イネクロカメムシが見られる圃場ではスタークル豆つぶを散布してください。

曇天雨が続くといもち病が発生しやすくなります。いもち病が発生した場合はオリブライト豆つぶを散布してください。また、補植用の置き苗はいもち病の発生源になるので、早急に処分してください。



イネクロカメムシ

(3) 施肥管理

下位節間(第4節間)の伸長は出穂23日前頃から始まり、18日前頃に最盛期となります。この時期に穂肥を施用すると節間伸長が助長され倒伏のおそれがあります。「コシヒカリ」のような倒伏に弱い品種は、この時期を経過した出穂16～18日前が穂肥施用時期です。

(参考:情報田平年値)

移植期:4月22日 出穂期:7月9日 穂肥施用時期:6月21～23日

※圃場毎に生育ステージ・葉色・生育量が異なるため、下記穂肥診断基準を目安に穂肥施用時期と施用量を決定してください。

コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0	0～3	3～6	6～8	8～11	11～14
幼穂長 (mm)	1	1～3	8～12	15～20	25～30	30～
草丈 (cm)	～72	～75	～78	～80	～83	83～
穂肥施用時期				←————→		

※幼穂長15～20mmの時(出穂18日前頃)が穂肥施用時期。

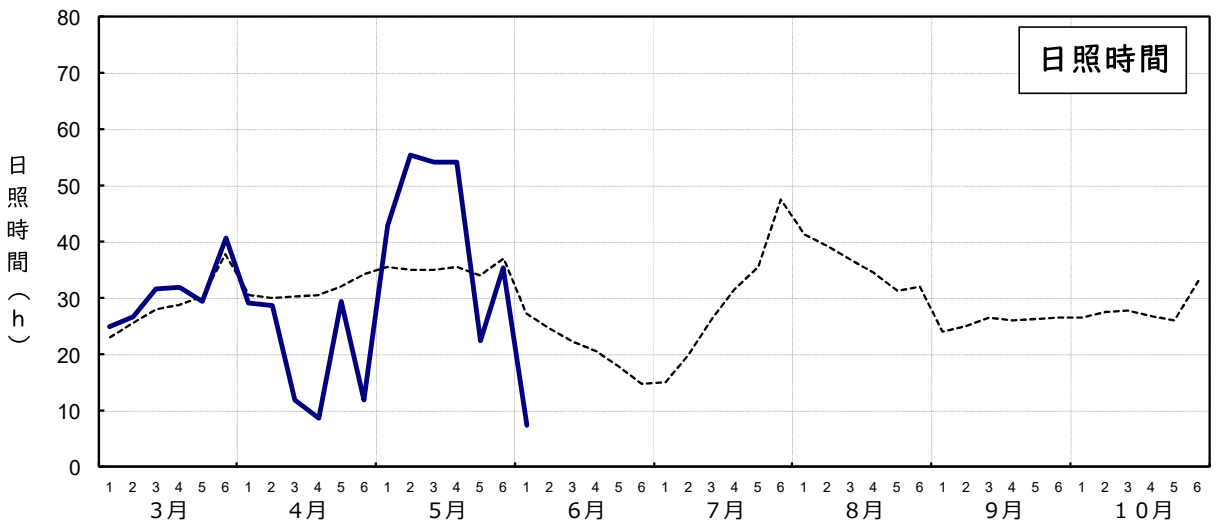
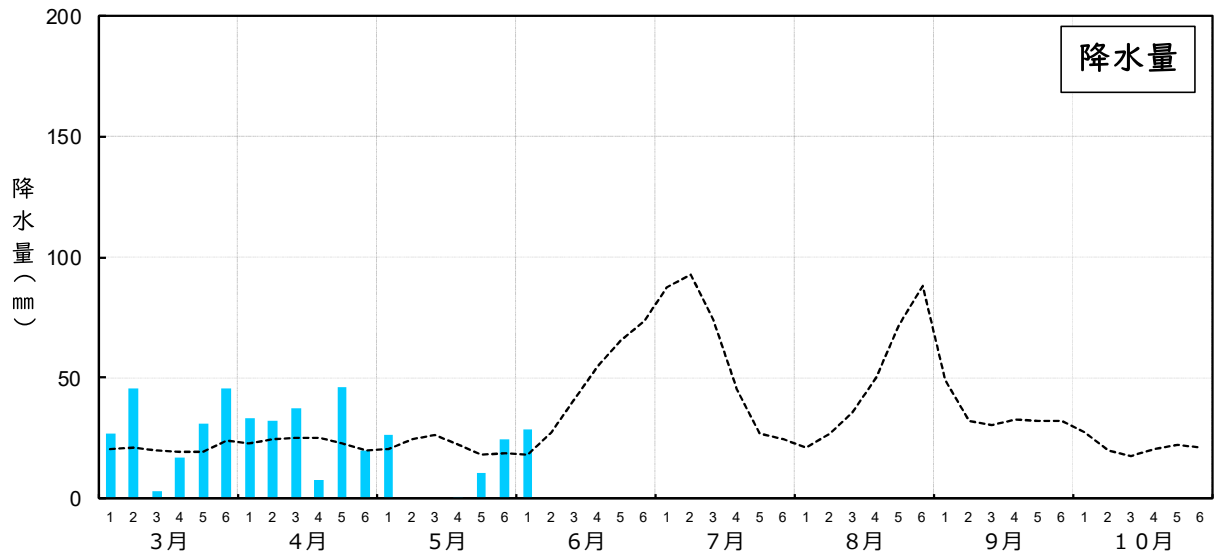
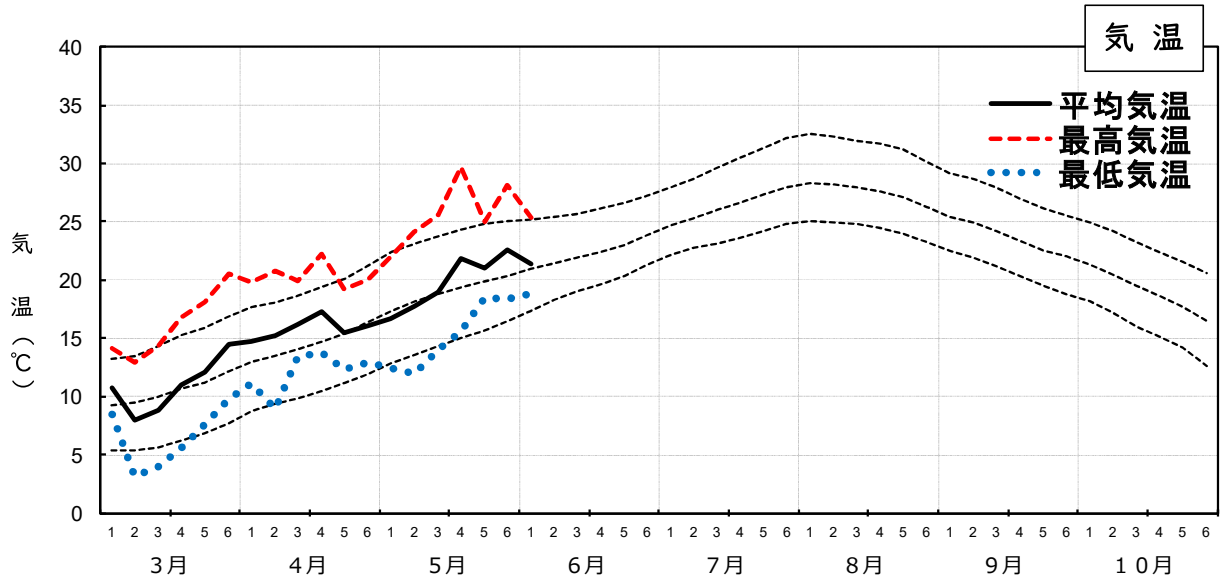
穂肥診断をした時の幼穂長が1mmの場合、その7日後を目途に穂肥を施用する。

コシヒカリ穂肥診断基準(穂肥施用時)

葉色	葉色板		SPAD	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	出穂前 日数	施用量 有機入りBB454
	群落	単葉					
淡い	～3.0	～3.5	～34.0	2	～75	24～25	15kg/10a
	3.0～3.3	3.5～3.8	34.0～36.0	5	～78	22	
標準	3.3～3.7	3.8～4.2	36.0～39.5	15	～80	18	7～10kg/10a
濃い	3.7～	4.2～	39.5～	15～	80～	～18	施用しない

(例) 穂肥施用時期の葉色(SPAD)が36.0～39.5、草丈が80cm以下であれば、有機入りBB454を10kg/10a施用する。

令和8年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年～令和 2 年の平均値